

代表者名	工藤雅一	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
所在地	小坂町十和田湖字鉛山無番地	設立年月日	平成9年12月5日

【沿革及び県の出資理由】

歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えるとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月設立。

【出資者】（25年度当初）

(千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	100,000	40.0
市町村	3	25,000	10.0
その他	15	125,000	50.0
計	19	250,000	100.0

【事業】

①主たる業務

十和田ホテルの諸施設の管理運営業務
酒類、食料品、土産物等の販売
上記各号に付帯する一切の業務

②事業実績

(人)

事業名等	22年度	23年度	24年度
宿泊客	16,975	12,226	13,835

③24年度事業概要及び25年度事業計画・目標

冬季期間鹿角国体を除く12月～3月の一般個人客の営業休止、ランチ・入浴休憩の一般営業休止等、事業採算性を重視した経営を継続いたしました。結果、宿泊客は、13,835名(前期比1,609名増、13.2%増)となり、また、休憩客については、30名以上団体利用客に販売を限定し、2,681名(前期比684名増、34.3%増)となりました。
以上の結果、ホテル全体の当期売上高は、225百万円(前期比31百万円増、16.1%増)の計上となりました。
営業費用においては、売上増加に伴う変動費(材料費・人件費・手数料・業務委託費等)の増加はみられたものの、固定経費項目ごとの最小化を図りました。結果、営業費用全体では218百万円(前期比24百万円増、12.4%増)を計上しました。営業利益は、8百万円(前期比7百万円増)、経常利益では8百万円(前期比7百万円増)となりました。
また、東京電力㈱に福島第一・第二原子力発電所における事故に対する損害賠償請求を行い、33百万円を特別利益にて計上しました。
平成25年度目標 営業収益221,650千円 経常利益11,150千円(対前年3,520千円増46.1%増) CSを維持しつつ更なる効率的な経営を図ります。

【組織】

①役員数 (H25. 7. 1現在)

(人)

	取締役	監査役
常勤	1	
内、県退職者		
内、県職員		
非常勤	8	1
内、県退職者		
内、県職員	1	
計	9	1
内、県関係者	1	

②職員数 (H25. 4. 1現在)

(人)

正職員	6	正職員 平均年齢	正職員 平均勤続年数
内、県退職者			
出向職員			
内、県職員		30.6歳	7.8年
臨時・嘱託			
内、県退職者			
計	6	平成24年度正職員平均年収	3,325千円
内、県関係者			

役員報酬支給対象者数(平成24年度)	2人
役員報酬支給対象者平均年齢	57歳
平均役員報酬額(平成24年度)	5,698千円/年

【財務】

①損益状況(24年度)

(千円)

	金額
経常収入 A	225,420
受託事業収入	
補助金収入	
自主事業収入	225,396
運用益収入	
その他	24
経常支出 B	217,790
人件費	70,337
その他	147,453
経常損益 C = A - B	7,630
経常外収入	33,417
経常外支出・諸税	3,649
当期損益	37,398

②財務状況(24年度末)

(千円、%)

	金額	構成比
流動資産	121,834	96.8
固定資産	3,970	3.2
資産計	125,804	100.0
流動負債	9,526	7.6
短期借入金		
固定負債	30,000	23.8
長期借入金	30,000	23.8
負債計	39,526	31.4
資本金	250,000	198.7
剰余金	△ 163,722	△ 130.1
純資産計	86,278	68.6
負債・純資産計	125,804	100.0

県の損失補償額	県の債務保証額
---------	---------

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
			%

【県の財政支出】

(千円)

	22年度	23年度	24年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費				
貸付残高				

1 主な経営指標

項目		単位	22年度	23年度	24年度	22-23増減	23-24増減
健全 展性	自己資本比率	%	79.20	57.65	68.58	△ 21.55	10.93
	借入金依存率	%	0.00	35.38	23.85	35.38	△ 11.53
	流動比率	%	434.41	1,372.26	1,278.96	937.85	△ 93.30
	経常収入額	千円	301,675	194,458	225,420	△ 107,217	30,962
収益 性	剰余金（△欠損金）	千円	△ 201,487	△ 201,120	△ 163,722	367	37,398
	経常利益率	%	2.00	0.34	3.38	△ 1.66	3.04
	総資本利益率	%	9.86	0.79	6.06	△ 9.07	5.27
効率 性	総資本回転率	%	4.92	2.29	1.79	△ 2.63	△ 0.50
	職員1人当たり経常収入額	千円	11,603	8,102	8,051	△ 3,501	△ 51
	人件費比率	%	34.31	34.10	31.20	△ 0.21	△ 2.90

2 経営目標の達成状況

経営目標			22年度	23年度	24年度	25年度
経営 改善 指標	経常利益額（千円）	目標	264	△ 13,328	7,600	11,150
		実績	6,042	667	7,630	
事業 成果 指標	売上高経常利益率（%）	目標	0.0	△ 6.8	3.6	5.0
		実績	2.0	0.3	3.4	
事業 成果 指標	売上高（千円）	目標	298,464	193,780	215,000	221,650
		実績	301,643	194,166	225,396	
事業 成果 指標	個人客宿泊人数（人）	目標	11,919	8,720	11,140	11,410
		実績	11,989	10,449	10,244	
顧客満足度指数	目標	90	89	89	90	
	実績	88	88	89		

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

売上高及び経常利益ともに計画を達成、概ね満足の結果である。
東京電力からの賠償金(33,417千円)を計上し、繰越剰余金を37,398千円改善した。

<顧客満足度調査の結果を受けて実施する取組>

- ・レストランで食事中に寒いとの意見があり、膝かけを常時準備し対応している。
- ・畳のほつれが服につくとの意見があり、畳の交換を実施した。

4 総合評価（計算書類等の資料による評価）

I 概ね安定した経営内容	II 一層の努力を要する経営内容
<p>・震災後に落ち込んだ団体客獲得のため首都圏等へのセールスを展開した結果、宿泊客が前年度に比べて増加したこと等により、売上高を225,396千円計上した。費用については、売上増加に伴う変動費の増加はあったが、前年度と同様、不採算事業の冬季休止等により固定費削減の取り組みを継続した。その結果、経常利益を7,630千円計上し、目標を達成している。</p> <p>・当年度は東電からの賠償金33,417千円もあり、累積欠損金を37,398千円改善したが、残り163,722千円を解消するために今後も効率的な経営が必要である。</p>	